

新型コロナウイルス ワクチン モデルナ についての Q&A

Q1. モデルナワクチンはどのような種類のものですか？

A1. モデルナワクチンはファイザーワクチンと同じく mRNA（メッセンジャーRNA）ワクチンです。ウイルスを構成するタンパク質の遺伝情報（mRNA）を投与することにより、体内でウイルスのタンパク質が産生されます。そのタンパク質に対する抗体が作られることで免疫を獲得します。

Q2. 有効性はどの程度ですか？ 効果の持続期間は？

A2. 発症予防効果は約 94%と極めて高い有効性が確認されています。また重症化予防についても高い効果が確認されています。さらに感染そのものを防ぐ効果も確認されるようになってきました。2 回目接種後 6 ヶ月時点の発症予防効果も 90%以上と発表されています。効果の持続については、集積される様々なデータを解析する必要があります。

Q3. 変異株にも有効ですか？

A3. 英国で最初に検出されたアルファ株に対しての有効性には変化は認められませんでした。南アフリカで検出されたベータ株やインドで検出されたデルタ株に対する有効率は少し低下するものの、依然として高い有効性が確認されています。

Q4. 妊娠中・授乳中・妊娠を計画中ですが、ワクチンを接種することができますか？

A4. 妊娠中、授乳中、妊娠を計画中の方も、ワクチンを接種することができます。mRNA（メッセンジャーRNA）ワクチンが妊娠、胎児、母乳、生殖器に悪影響を及ぼすという報告はありません。

A5. 過去にアレルギー反応やアナフィラキシーを起こしたことがあり、今回も起こすのではないかと心配なのですが、接種を受けても大丈夫でしょうか？

A5. 食物アレルギー、蜂毒アレルギー、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎や花粉症、じんま疹、アレルギー体質などがあるといった理由だけで、接種を受けられないわけではありません。また、接種するワクチンの成分に関係のないものに対するアレルギーを持つ方も接種は可能です。ただし、これまでに、薬や食品など何らかの物質で、アナフィラキシーなどを含む、重いアレルギー反応を起こしたことがある方は、接種直後に調子が悪くなったときに速やかに対応ができるよう、接種後、通常より長く（30 分間）、接種会場で待機していただきます。

Q6. 基礎疾患（持病）の有無によって、ワクチンの効果や副反応に違いはありますか？

A6. 高血圧、糖尿病などの基礎疾患をもっている方にも高い予防効果があることが分かっています。まれな副反応であるアナフィラキシーについては、過去にアナフィラキシーを含む重いアレルギー症状を引き起こしたことがある人でやや起こりやすい可能性があります。重いアレルギー症状を起こしたことがある方は、ワクチン接種後 30 分程度は接種会場で様子を見てください。アナフィラキシー以外の副反応については、基礎疾患の有無による頻度の違いは報告されていません。

Q7. 「血液をサラサラにする薬」を飲んでいますが、ワクチンを接種することはできますか？

A7. 接種できます。抗凝固薬を飲んでいる方は、出血が止まりにくいことがありますので、接種後 2 分間以上しっかり押さえてください。接種前に休薬の必要はありません。

対象のお薬	
抗凝固薬	
不整脈、血栓症、心臓の手術後の方に処方されることが多いお薬です。	
商品名	一般名
ワーファリン	ワルファリンカリウム
ブラザキサ	ダビガトランエテキシラート
イグザレルト	リバーロキサバン
エリキュース	アピキサバン
リクシアナ	エドキサバントシル酸塩水和物

Q8. 新型コロナウイルスに感染したことがある人は、ワクチンを接種することはできますか？

A8. 新型コロナウイルスに感染した方もワクチンを接種することができ、現時点では通常通り 2 回接種します。ウイルスに一度感染しても再度感染する可能性があることと、自然に感染するよりもワクチン接種の方が新型コロナウイルスに対する血中の抗体の値が高くなることが報告されているからです

Q9. ワクチンを接種すると心筋炎や心膜炎になる人がいるというのは本当ですか？

A9. 海外において、頻度としては極めてまれですが、接種後に心筋炎・心膜炎を起こした事例が報告されています。接種後数日以内に、胸痛、動悸、息切れ、むくみ等の症状があれば、すぐに医療機関を受診し、ワクチンを受けたことを伝えてください。報告されているものでは、若い方、特に男性において 2 回目の接種後数日以内に発症する例が多い傾向が見られます。心筋炎と診断された場合には、一般的には入院が必要となりますが、多くは安静によって自然回復するとされています。軽症の場合が多く、心筋炎・心膜炎のリスクがあるとしても、ワクチン接種のメリットの方がはるかに大きいと考えられています。

Q10. mRNA を投与することで、遺伝子変異や子孫への遺伝的影響が心配です。

A10. 身体の中では遺伝情報 (DNA) から mRNA が作られる仕組みがありますが、情報の流れは一方通行で、mRNA からは DNA は作られません。また mRNA は人の遺伝情報 (DNA) に組み込まれるものではありません。精子や卵子の遺伝情報に取り込まれることはないと考えられます。mRNA は数分から数日で分解されます。

Q11. ワクチンを接種すると、PCR 検査で陽性になりますか？

A11. ワクチンはウイルスを構成するタンパク質の一部の遺伝情報を投与することで免疫を作り出します。ウイルス自体を体内に投与してはいませんので、接種することで PCR 検査が陽性になることはありません。